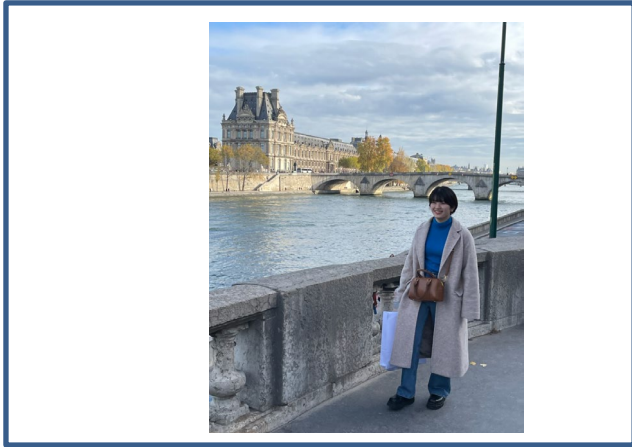


OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 清原咲良
所属 (School) 文学部 言語文化学科
学年 (Grade) 3年

留学先 (Name of overseas institution)
フランス
留学期間 (study abroad period)
2022/10/5~2022/11/4

記入日 (Date) 2023/2/7

留学レポート Study Abroad Report

【きっかけ、経緯】

2022年の秋に、1か月間、フランスのル・アーブル・ノルマンディー大学へ留学に行きました。この留学は、大阪市立大学の文学部と商学部が行っているプログラムです。留学に参加しようと思ったきっかけは、私自身、大学でフランス語圏言語文化コースに所属しており、大学生の間に実際にフランスへ留学に行きたいという思いがあったため、この留学に行く決意をしました。留学自体は2度目であり、高校2年生の頃にもフランスへ短期留学に行ったことがありました。フランス語を大学で専攻したことも、高校時代の留学がきっかけです。

【ホームステイ】

留学中は、現地のホストファミリーの家に1か月間ホームステイをしていました。私は、もう一人の同じ大学の方と一緒にホームステイをしていたのですが、ホストファミリーはすごく温かい方で、私たちの意向も尊重してくれたり、すごく快適な1か月を過ごすことができました。料理が好きな家庭であり、夜ご飯は典型的なフランス料理を毎日食べることができました。また、初めて見た料理や食べ物などがあると、すごく丁寧に説明してくださりました。週末は、少し遠くの有名な観光地に連れて行ってくれたり、パリは日帰りだと厳しかったため、自分たち学生だけで外泊していきたい、と言ってみたところ、自分たちだけで旅行にも行くことができました。その際に、ホテルの予約なども一緒に手伝ってくれて、ほんとうに感謝しています。留学前から、ホストファミリーに対しては謙遜せず自分の意見は伝えた方がいい、と言われていましたが、実際にその通りだと思いました。自分が何かしたいこと、したくないことがあれば、それらはしっかりとホストファミリーに伝えるべきだと感じました。フランスは自分の意見などははっきり主張するというような文化があると聞いてもいたので、その点からも、日本とは違いあまり謙遜ばかりしないほうがいいのではないかと思います。

【現地の大学について】

大学では、私たち日本人留学生に対して、留学生にフランス語を教えるための先生が、少人数のマンツーマンレッスンをしてくださりました。授業は一日2時間程度しかなく、物足りないと感じる学生もいるかもしれませんが、その分ル・アーブルの観光をする時間を作ることができたので、有意義な時間を過ごすことができたのではないかと考えています。また、先生が授業の一環として近くの街に私たちを連れて行ってくれたりしたので、文化を直に体験することも授業を通して体験でき、良かったです。また、授業が少なかったということから、日本語を学んでいるフランス人学生向けの授業にも積極的に参加するようにしました。現地の学生は、やはり、日本文化が好きな方がとても多く、アニメや漫画の話でもすごく盛り上がりました。日本に留学したことがある学生も多くいたので、日本語が上手な方も多かったです。日本語を勉強している学生たちと仲良くなり、授業後にはパーティーを開催してくれたり、一緒にスケートリンクにも行ったり、ご飯を食べに行ったりもしました。現地の学生たちはすごくフレンドリーな方が多く、学校以外でも関わることができ、とても楽しかったです。コミュニケーションをとるときは、こちらがフランス語を使ったり、現地学生が日本語で話しかけてくれたりと、お互いに勉強をする機会にもなりました。また、現地学生と仲良くなることで、有名な観光地の付近にあるおすすめのお店を教えてくれたり、学校の近くのおすすめのお店や、おいしいお菓子を教えてくれたりと、一緒に行動する時間はなくても、多くのことを教えてもらうことができました。来年度、大阪公立大学に留学に来る学生や、旅行で日本に来る学生もおり、その子たちと日本で再会する約束もしているので、次はこちらが案内をする機会でもとても楽しみです。

【休日の過ごし方】

学校が休みの日には、一泊二日で、パリや、モンサンミッシェルに行ったり、ホストファミリーに車で1時間ほどかかる街へと連れて行ってもらいました。1週目はエトルタとオンフルーフというところへ行きました。海辺に崖があり、その崖と夕日がマッチした景色がすごくきれいでした。実際にその景色を何人かのフランス人画家も作品にしているらしく、パリのオルセー美術館にはその景色の絵画が展示されていました。海辺の観光地ということで、土日はパリなどの内陸からくる人も多いとのことでした。実際に、現地にはすごくたくさんの観光客の方がいました。オンフルーフは、港町として有名な所で、ここも、土日は多くのパリからの観光客が来るとのことでした。お土産屋さんもすごくたくさんあり、街並みもかわかったため、私はここがすごくお気に入りの場所でした。

二週目は、私たち日本人学生だけで、一泊二日でパリに行きました。パリへは電車で2時間ほどかかりました。フランスでは、美術館は、学生はただで入ることができることがほとんどであり、私たちはル・アーブル大学の学生証を作ってもらっていたため、パリのルーブル美術館とオルセー美術館には無料で入ることができました。フランスへ留学に行く方がいる場合は、ぜひフランスの美術館にたくさん行ってほしいです。他にも、エッフェル塔や凱旋門など、主要な観光地に行くことができました。セーヌ川のクルージングもしました。クルージングではパリの街並みをゆっくりとみるのができたので、すごく贅沢な気持ちになることができました。また、モンマルトルというパリの中でもアートが多い街に行きました。たくさんの画家が路上で観光客の似顔絵を描いていたり、路上で絵を販売していたり、街の外壁にもかわいい落書きがたくさんあったりと、日本ではなかなか見ることができないようなことをたくさん見ることができました。夜ご飯は、現地の先生が教えてくれた、比較的安くディナーを食べることができる店に行きました。お店の雰囲気もすごくよく、しかもリーズナブルな価格で頂くことができたので良かったです。そこで、初めてエスカルゴにも挑戦しました。また、夜はエッフェル塔のライトアップに行きました。一時間に五分間、シャンパンフラッシュといって、きらきら点滅する時間があるのですが、その瞬間が本当にきれいでした。以前大阪市立大学に留学に来ていて、現在はパリに住んでいるフランス人学生と合流して、有名なデパートからのきれいな夜景を見せてもらったり、街を少し案内してもらいました。フランスで、また友人と再会できたのはすごく貴重な機会でした。

三週目は、モンサンミッシェルへホストファミリーと行きました。モンサンミッシェルは少し遠かったため、モンサンミッシェルの近くに住んでいるホストファミリーのご両親の家に泊まりました。ご両親の方もすごく親切で、ご飯の説明やワインの説明を丁寧にしてくださりました。また、モンサンミッシェルはコロナが少し落ち着いてきたということもあり、日本人の観光客の方もちらほらみかけました。すごく荘厳な雰囲気のある島で、他の観光地とはまた違ったイメージを抱きました。

【全体の感想】

私は就活中というため、非常に行くかどうかを迷ったのですが、ほんとうに行ってよかったと考えています。新しいことをたくさん経験できたり、現地で友達を作ることができたり、もちろん自分の語学力を向上することにも繋がったりと、予想していた以上の貴重な経験をすることができました。参加するまでは非常に不安なことも多いと思いますが、少しでも参加したいと考えている方がいるのであれば、ぜひためらわずに参加してほしいです。

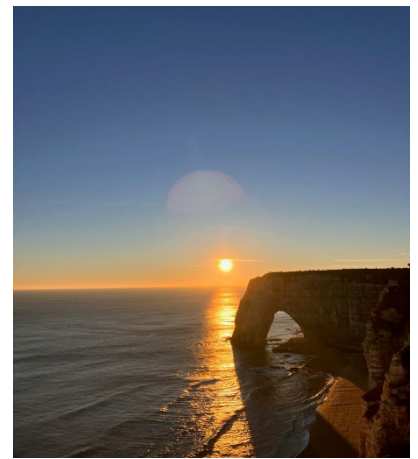
【オンフルーフという有名な港町】



【ルーブル美術館】



【エトルタ】



【ホストファミリーが作ってくれた、フランスの家庭料理】